

令和7年度 学校経営計画書（自己評価）

学校番号	81	学校名	静岡県立浜名高等学校 (定時制)	校長名	山崎 裕子
------	----	-----	---------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	授業改善や学習支援の取組みを通じた生徒の基礎学力の定着	・「授業の内容・説明がわかりやすい」と答える生徒90%以上。	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒98.1%	A	外国にルーツを持つ生徒でも読みやすい教材作りやICTを活用した「分かる授業」を行っていることがこの結果に繋がったと思われる。引き続きさらなる授業改善や学習支援の充実を推進する必要がある。
		・「授業を通して新しい知識が身に付いた」と答える生徒90%以上。	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒100%	A	生徒に理解しやすい学習内容をICT等を活用して分かりやすく伝えていることがこの結果に繋がっていると思われる。今後はより複雑な課題にも前向きに取り組む姿勢・態度を育てていくことが必要である。
		・「授業を通じて社会への関心が高まった」と答える生徒90%以上	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒89%	B	日々の学びが社会への関心を高めたと多くの生徒が回答してるが、目標をわずかに下回った。次年度以降は、生徒自らが課題を設定し、授業で得た知識や技能を使って探究を行う場面を増やしていくことで、社会課題と学習内容を繋げる取組みを行っていく必要がある。
		・「授業に意欲を持って取り組んでいる」と答える生徒90%以上。	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒92.6%	A	授業での学びを通じて、多くの生徒が自らの成長を実感できていることがこの結果に繋がったと思われる。引き続き基礎・基本を重視した「わかる授業」を実施していく。
		・「授業に工夫がある」と答える生徒80%以上	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒93.6%	A	解決したい課題をわかりやすく明示したり、できるだけ生徒にとって身近な題材を使うよう心掛けたりと教員の日々の工夫がこの回答に繋がっていると思われる。これに満足することなく、授業改善を進めていく必要がある。
イ	効果的・系統的な進路指導体制の構築による生徒の社会参画につながる進路意識の高揚	・卒業年次の夏までに体験入学や職場見学に参加した生徒90%以上。	4年生・3修生28名のうち夏休みまでに27名が体験入学・職場見学に参加した。 96.4%	A	商工会議所との連携によるマッチング事業では、生徒の送迎を行ってくれる企業が増えたため見学に参加しやすくなった。多くの企業に訪問したため、その企業が募集をしていなくても企業や業種を知るための見学を受け入れてくれるケースが増えた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	効果的・系統的な進路指導体制の構築による生徒の社会参画につながる進路意識の高揚	・卒業時に進路が決定している生徒90%以上。	卒業時に進路が決定している生徒。28名中26名(92.9%)。	A	進路未決定者2名は、ともに母国への帰国を予定している生徒であり、1名はフィリピンでの大学進学、1名はブラジルでの就労を検討している。 今年度は、求人検索システム Handy を利用して自分の希望する企業を探す生徒が増えた一方で、正規就労を勧めているにもかかわらず、その必要を自覚できない生徒もみられた。結果的に正社員としての就職には至らず、アルバイトを継続する生徒が例年より多かった。また福祉的就労を必要とする生徒もおり、支援機関とつながるよう指導したが、家庭の協力が得られないケースもあった。昨年度まではサポステ浜松の職員が定期的に来校してもらっていたが職員が変わり難しい状況になった。一方で新しくウェルビー・ライト等の就労移行支援機関とのつながりができた。今後も地域の支援機関とつながりが持てるようにしたい。
		・検定合格者及び資格取得者数延べ50人以上。	29名(日本語ワープロ検定)	B	授業の単位数が減少し、練習時間が確保できないため、上位級への受検は難しい。また、受験料が年々高騰しており、申し込みの時点であきらめてしまう生徒もいる。
ウ	丁寧な指導と支援体制の充実による生徒の基本的な生活習慣の確立	・「生徒情報の共有を指導に活かすことができた」と答える教職員100%	「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した教職員100%	A	主に打合せ時に支援を必要とする生徒に関する情報共有を行うことができた。SCやSSWと連携し、生徒が抱える困難や支援の方法についても全職員で共有することができた。今後は特性を持つ生徒の支援方法に関する研修の場面を多くしていきたい。
		・「校内に自分の悩みや不安を話す人や機会・場所がある」と答える生徒90%以上。	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒79.8%	B	クラス担任との面談やSCとのカウンセリングで、自らの困り感を話すことができる生徒については、その状況を把握し支援を行うことができた。しかし相談ができない生徒に対する具体的な取組みがなかったことがこの結果に繋がったと考えられる。今後は利用しやすい相談室の在り方やC-Learningで困難を抱える生徒を把握する方法を検討していく必要がある。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	丁寧な指導と支援体制の充実による生徒の基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通事故及び問題行動が年間10件以内。 	12月現在、問題行動1件、交通事故3件	A	授業の始めに交通安全について話をする機会をつくった。問題行動については、自分の感情や行動をコントロールすることができていないことから生徒指導につながった。全体指導の中で自分のとる行動に責任をもつことなども呼びかけをしていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の出席率93%以上、遅刻率及び早退率各7%以下。 	出席率91.9%（1、2学期）、遅刻率5.4%、早退率：0.6%	B	上級生の出席状況が改善されてきた。1年生は簡単に休んでしまう雰囲気がある。
エ	生徒の新たな体験や学校生活の充実につながる質の高い学校行事や特別活動等の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「学校行事が充実していて楽しい」と答える生徒・保護者90%以上。 	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒90% 「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者86.8%	B	各行事の担当職員が綿密に計画を立てて実施したことで、おおむね目標を達成することができた。また外国にルーツを持つ生徒を中心に行事を楽しもうとする雰囲気を作ってくれていることも大きい。引き続き生徒が望む行事を計画するとともに、その様子を保護者へ発信することが必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 外部講師等による研修会等の開催10回以上。 	外部講師等による研修会等の開催25回	A	総合的な探究の時間やLHRの時間を利用して、定時制全体で外部講師等による研修会等を多く開催することができた。来年度以降もこのような機会を多く設けて生徒が社会を知る契機としていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 「自分には良いところがある」と答える生徒85%以上。 「クラスメイトの考え理解し、受け止めることができた」と答える生徒85%以上。 	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒79.8% 「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒86.8%	B	外国にルーツがあり日本語の能力が低かったり、中学校時代に不登校を経験したり、特性を持ち、生きづらさを抱えている等、定時制には自己肯定感が低い生徒が多い。一方で他者の良さや考えを尊重できている生徒が多いのは前向きな結果であった。引き続き、高校生活の中で達成感や充実感を得て、生徒が自己肯定感を高められるよう指導にあたりるとともに、あらゆる教育活動の中で他者を尊重することの大切さを生徒に伝えていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 部活動の大会出場や発表会等の対外行事に参加する生徒延べ30人以上。 	部活動に参加している生徒39名。	A	39名の内訳は、男子バスケ（14名、マネージャー3名）、女子バレー（8名、マネ2名）、陸上競技2名、バドミントン部10名である。部活動顧問が4名ついたことで多くの大会に出場できた。生活体験発表大会等対外行事についても、多くの生徒が成果を上げている。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	広報の充実等による本校及び定時制の教育活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> 「学校案内」の刷新。 ホームページの週2回以上の更新。 	「学校案内」の内容は刷新した。ホームページは2学期(15週)のうち更新回数が12回。目標達成率40%	C	「学校案内」は最新の内容に変更することができた。ホームページ更新については、システムが変更されたため1学期間の更新はできなかった。夏季休業中に研修会を実施し、2学期以降更新回数は増加したが、目標には届かなかった。次年度以降は、週2回以上の更新を職員間で徹底して目標を達成していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等で「浜名高校のことが分かった」と答える来校者95%以上。 	「理解できた」「まあまあ理解できた」と回答した来校者90%	B	昨年を上回り100名(生徒48名、保護者41名)の参加があった。これまで同様、浜名高校定時制への高い関心を持つ生徒・保護者が多いことが明らかとなった。これまではなかった取組みとして定時制生徒が学校紹介を行ったが、来校者からは好評であった。引き続き、より分かりやすく、親しみやすい学校説明会を実施していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 「学校の教育活動の様子がわかる」と答える保護者90%以上。 	「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者69.8%	C	昨年度の90.2%から大幅に減少した。ホームページのシステム変更のため、ホームページの更新や「ともしび通信」の公開が遅れたことが要因として考えられる。これらの改善とともにC-Learningを活用した発信も行っていく必要がある。
カ	生徒・教職員が安全・安心に教育活動を展開するための教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 「学校内外の整備・美化は行き届いている」と答える生徒・保護者90%以上。 	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒90.8% 「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者84.4%	B	毎学期末、ロッカーと靴箱の清掃が行われ、清潔な状態に保たれている。厚生委員による食堂、トイレの大掃除も学期に1回(年間3回)行われているが、全日制と定時制が共同で使用する部分は使用人数も多く、使用頻度が高いため、清掃が行き届いていない。日常生活の中で少しずつ清掃時間を確保し、整備・美化に努めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 「浜名高校に入学してよかった」と答える生徒90%以上 「入学させてよかった」と答える保護者90%以上。 	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒93.6% 「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者93.9%	A	日本語教室を通して日本語の理解が進んだ生徒が増えてきていることや、教職員がSC、SSWと連携してワンチームで困難を抱える生徒に対応していることがこの結果に繋がったと考えられる。引き続き生徒に寄り添った支援体制を充実させていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 地震や暴風警報発令時等の登校基準や行動を把握していると答える生徒80%以上。 	「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒93.6%	A	今年度2回の防災訓練(地震・火災)を実施した。また荒天が予想される時に暴風警報発令時の対応をその都度、周知した。一方で地域防災訓練に参加している生徒が少なく、地震発生時の対応には課題がある。